

平成 24 年度 第 3 回備前市公共交通会議 議事概要

1. 日時：平成 25 年 1 月 8 日（火） 13 時 30 分～15 時 30 分
2. 場所：備前市役所 3F 大会議室
3. 出席者：(敬称略)

(委員)

- 会長 西岡 憲康(市長)
- 副会長 宇治橋 昭彦(市自治会連絡協議会)
- 橋本 成仁(岡山大学大学院環境生命科学研究科 学識経験者)
- 三村 功(総務部長)
- 岩崎 透(市教育委員会)
- 大本 一栄(日生運輸株式会社)
- 香西 正巳(県タクシー協会和気支部)
- 藤原 真(日生運輸株式会社)
- 藤澤 健太郎(市自治会連絡協議会)
- 更谷 暢久(市自治会連絡協議会)
- 溝邊 榮(市自治会連絡協議会)
- 寺見 史朗(市老人クラブ連合会)
- 山本 啓之(伊里小学校PTA)
- 渡辺 孝(JR西日本岡山支社) 石原委員代理

(専門員)

- 岡田 和史(中国運輸局岡山運輸支局首席運輸企画専門官)
- 秋本 理恵(中国運輸局岡山運輸支局運輸企画専門官)
- 保田 邦昭(備前警察署交通課企画係長)
- 四条 雅之(岡山県県民生活交通課交通政策班主幹)
- 田中 信彦(岡山県備前県民局東備地域建設課主任)

(事務局)

企画課 4 名、教育委員会 2 名

(その他)

調査委託業者 2 名

4. 欠席者：(敬称略)

(委員)

- 宇野 泰正(宇野自動車株式会社)
- 三宅 陽(市老人クラブ連合会)
- 井上 邦允(市老人クラブ連合会)
- 井口 恭子(吉永小学校PTA)
- 雄島 仁(大生汽船株式会社)
- 西滝 道雄(瀬戸内観光汽船株式会社)

5. 傍聴人：2 名(うち報道 2 名)

6. 議事

開会

あいさつ

協議事項

( 1 ) 備前市の公共交通の現状と課題 見直しの方向性について

( 2 ) 今後のスケジュール

その他

・ 諸島地区におけるアンケート調査、意見交換会について

閉会

## 7. 【会議要旨】

協議事項

( 1 ) 備前市の公共交通の現状と課題 見直しの方向性について

《事務局》

資料 1-1 について説明

《質問・意見》

橋本先生 買物目的などで市外へ行きたいというニーズがあることがわかった。それに対して、今回の計画では「まちづくり」と結び付けるといことで、備前市の活性化に向けては前向きな提案で良いと思います。民間事業者との連携という話もありましたが、たとえば商業施設のような事業者とは、どのような連携が考えられるのか、現段階でのアイデアがあれば教えてほしいと思います。

事務局 備前市では周辺市町への外向きの移動ニーズがあり、市の活性化という面ではマイナスの方向に向かっているといえます。計画の方向としては、地域内の連携を強化する公共交通を検討していきたいと考えており、こういった市外への移動ニーズに対しては、モード間の連携を強化することで、JR や宇野バスなど広域をカバーする公共交通の利用促進につながればとも考えています。商業施設等との連携については、たとえば商業施設で 3,000 円以上の買物をした場合、商業施設が帰りのバス運賃の一部を負担してもらおうといったような取組なども、他の事例もあり、考えられます。また、バス停の待合い環境を日々整えておくことなども、商業施設や医療機関などの協力もいただきながら進めていければと思います。

橋本先生 商業施設などの協力を得ることは、実行するとなるとなかなか手強いかもしれませんが、がんばっていただければと思います。また、単にバス利用者だけを相手にしても、なかなか市民の中の割合で言うと数パーセントと少ないため、もっと大きな商業の活性化とも連携するような視点も持ってほしいと思います。また、先ほど 3,000 円以上の買物をした方に運賃を安くするというような話もありましたが、公共交通で 3,000 円分の買物をして、その荷物を持って帰るといことは、高齢者にとってはなかなか大変なことだと思います。例えば、乗り降りの補助をしたり、バス車内に荷物の置き場をつくるなど、ただ単に路線を走っていればお客さんが乗ってくれるであろうといった考えではなく、今までとは違った新しい視点からプラスアルファ のサービスをして利用者が利用しやすい環境をつくっていくようなことも計画の中に盛り込んでほしいなという気がしました。

会長 商業施設との連携に関連して、マルナカ穂浪店では、バスが店舗前まで入れるような取り組みも去年より行っており、利用者からの評判もよいと聞いています。こうしたことに対して、運輸局さんはどのような考え方をもっていますか？

岡田専門員 商業施設を拠点化する。そういった取組も利用促進の一つであり、良いと思います。例えば、病院へ行った方が、商業施設へ行って買物をして帰宅するといった機会の確保にもつながります。バス停を設置するということについては特段の制限は

ございません。あとは、商業施設との協議になってくると思います。

委員 備前市には3つ市民病院があるが、産婦人科がないと思います。子育て支援という話があったが、そうした点からも検討してほしいと思います。

会長 その点については、市としてもこれまでも問題として認識し対応したいと考えてきましたが、産婦人科の場合は担当の先生が一人いるだけでは成り立ちません。しかし、三人集めるとなると人手が少なく非常に難しい状況です。

委員 どこか一か所の病院だけでも、なんとかならないのですか？

会長 人手がなく難しいです。これは国の政策にも問題があると思います。備前市には婦人科ならあります。

委員 先ほど買物との連携の話もありましたが、バスを利用する高齢者は、行きはバスで買い物にきて、帰りはタクシーを利用しています。やはり、荷物をもってバスから家まで歩くのも大変なため、帰りはタクシーを利用する人が多いようです。片上片鉄バス停では、今はそれがうまくまわっているように感じます。

会長 そうした利用に対応できるような片道時刻表などもかんがえられないかなと思いますが。また、今利用していない人に対しても、そういう利用方法を伝えることも必要だと思います。

委員 高齢者はしょっちゅう外に出ないため、買物をする際も3～4日分買い、荷物も多くなります。

会長 そういった利用方法は、考え方としてはーフデマンドとしても言えると思います。

橋本先生 確かに調査結果からも、行きはバスで帰りは送迎やタクシーといったような結果もでています。ただすべての人がそういった利用の仕方ができるかという話もありまして、片上あたりの非常に近い人はそれができますが、家が遠い方は、買い物以上のタクシー代を払わないといけなくなるということにもなり、経済的に難しいと思います。こうした方に対しては、例えば帰りは荷物を運ぶのに利用できる配送サービスを行うことなども組み合わせ対応することも考えられます。帰りは荷物が多いから公共交通を利用するのが大変というところですが、お店が配送サービスをするというのもありだと思います。発想を転換して、本会議の枠を超えた話になるかもしれませんが、例えば帰りは500円の配送サービスを利用できるようにすれば、タクシーを使うより安くなると思います。今回、「まちづくり」と絡めた計画を提案してもらっていますが、そうしたことから公共交通の枠を超えた、より視点を広げた話につながれば良いと思います。

委員 備前市全体でタクシー会社は8社いて、タクシー事業者がない地区は東鶴山くらいです。このため、買い物をして帰る時はタクシーを、「何時に迎えに来てください」などと予約してうまく活用してもらえれば、対応できると思います。また市外へいく人たちを市内の方へ取り込むそういう施策があればと思います。

会長 専門委員さんからは何かありませんか？

岡田専門員 先ほど商業施設の拠点化という話があったが、病院をアクセスポイントにすることも必要だと思います。病院へのアクセス、利便性も高まれば、病院の利用促進にもつながると思います。

委員 片上自治会で行った地区でのアンケートについて見させてもらいました？片上地区のアンケートでは、150くらいサンプルがあってバスの話がよく取り上げられていました。片上は備前市の中では、バスの便が良い方ですが、それでも不便を感じ

ているということを感じました。

委員 片上地区でも、バスの便が悪いという話は確かにあります。本会議のような、公共交通に関しては、環境問題などの話も関連します。公共交通が衰退しています。根本として、元気な人は自家用車で毎日移動して、レジャーを楽しみ、その結果、地域の商業が疲弊している状況もあります。これは自分たちの生活を見直す良い機会だと思います。先ほど橋本先生から良い話がありましたが、まちづくりと関係づけることは非常に重要だとおもいます。備前市には、タクシー会社が複数ありますが、タクシーがたくさんあることは、まちづくりの視点からも非常に心強い話だと思います。いろんな規制があるとはおもいますが、市民にとって使いやすく親しまれるタクシーの運行がなされればいいと思います。公共交通は離島や過疎地域だけの話だけでなく、中心市街地の活性化や備前には閑谷学校など観光地もあります。それらを活性化させていくというまちづくりの観点からも議論を深めていければとおもいます。

委員 利便性を高めるとか、もう少し商業施設にいいように繋いでなどと言われますが、バスが走っているから安心しているというのではなく、「ある以上は乗っていただく」ということが必要です。乗る人が増えれば、商業施設や病院に行くにも、もっと便利になると思います。

委員 バスに乗る体験や乗ることを習慣づけることも必要で、この会議が良いきっかけづくりになると思います。

橋本先生 資料1-1の52ページでは、「みんなで支える公共交通」という話があり、「走っていれば満足」ではなく、みんなで乗って積極的に支えていきましょう。という基本的考え方を示しております。今回の住民アンケートからも地域住民も含めて一緒にやっていくべきという意見が7割ぐらいとなっています。市民の意識もこういった意識であるため、できるだけそういう意識を形にかえていくということを考えていく必要があると思います。「みんなで支える」と言っていますが、一番の基本は「みんなで乗る」ということですので、是非ともそういう風なことも具体的な政策として立案していただければと思います。

副会長 市長に代わりまして、進行させていただきます。非常に良い方向に話が進んでいると思いますが、みなさんこちらの提案でよろしいでしょうか。

(拍手)

副会長 それでは次に進めます。

《事務局》

資料1-2について説明(今回、議論した内容は計画書のカッコ書きの部分の内容)

(2)今後のスケジュール

《事務局》

資料2-1について説明

➤ 次の会議ですが、2月5日を予定しています。ここでは、計画書(案)について、協議させていただくような内容になります。その結果を受けて、2月8日~3月9日にかけて、パブリックコメントを行います。その期間中、2月13日、14日で市内3地区で計画書の内容について、市民の方から意見をいただくようにしたいと思います。パブリックコメントの結果をうけまして、その後公共交通会議を実施し計画書の内容をつめたいと思います。

会長 それでは、スケジュールについてはこのような内容でよろしいでしょうか。

(承認)

その他

《事務局》

- 架橋後の交通体系の検討に向けて、頭島と鹿久居島まではアンケート調査を実施しています。また、大多府、鴻島では架橋後も離島として残るという事で意見交換会を行っています。この2島では、定期船が唯一の公共交通手段になることから、島民のみなさんの生活利便性を確保しながら、将来にわたって持続可能な公共交通サービスを提供する必要があると考えていまして、島民の方々や事業者と調整しながら進めてきたいと思っています。
- 現在大多府では意見交換会を2回実施しており、鴻島は今月に2回目を実施する予定です。アンケート調査については、実施していませんが意見交換をする中で意見集約をしていきたいと考えています。
- 当初は、事務局の方では、頭島を起点とした航路を想定した意向調査をしようとしたのですが、大多府、鴻島の方々の了解を得られず、アンケートはしておりません。その後も大多府に伺いましたが、島から本土までの直航便を今まで通り残してほしいということでした。もし仮にバス等が頭島まで来ても、高齢者等が重い荷物を持って、または手押し車などを持ってバスとの乗換えは困難であり、頭島で乗り換えるよりも本土まで直接行く方がよいという意見が多数であり、これ以上、定期船の便数が減ると島に住めなくなるという危機感も持っておられます。今後も、架橋効果を生かしながら、島民のみなさんの生活利便性を図るべく、島民のみなさんとの意見交換を重ねていきたいと思っています。大多府や鴻島の方々にとっては、橋が架かるのに、自分たちが不便になるのはどうかというような思いがあります。

《質問・意見》

会長 これは島民でないといけないことだとも思います。我々には判断が難しく、そういう意味でも鴻島、大多府の方々の意見をよく聞いて検討していきたいと思えます。、みなさんにも理解していただきたいことですが、陸上交通と海上交通というものは全く違います。陸上交通の場合、道路を建設するための用地代等もありますが、海上ではかかりません。そういったこともひっくるめて、定期船の料金体系を検討する必要があると思います。みなさん何かありますでしょうか。

橋本先生 島の方の話は、まだまとまりきってないような状況ですが、海上交通の話はパブリックコメントをする上ではどうしていくのでしょうか。今後のスケジュールはどのようになっていますか。

事務局 今月中に鴻島で意見交換を行う予定です。船の大きさなどについては、事業者の意見も聞きながら対応する必要があると思います。ただ、いつのタイミングで頭島への駐車場整備などができるのか、それら受け入れ態勢をどうしていくかとかはまだ庁内協議も必要で不透明なところも多いため、時期的にいつのタイミングでこうするというところまでは記載できていないところで、現段階では、実態に合わせて住民との合意形成を行いながら、実施していくとしています。

橋本先生 計画書には具体的な計画というよりは、方向性や方針を決める必要があると思います。その中で、基本的な市の考え方として、海上交通と陸上交通をどのような方針で進めていくかということは示す必要があります。次回の会議もありますので示していただければと思います。

事務局 わかりました。また相談させていただきながら、検討したいと思います。

会長

他にございませんか。

ないようですので、本日の会議はこれで終わります。次回の公共交通会議へも皆さんご出席ください。

了